

あすなろだより

第21号

平成19年11月11日発行

社会福祉法人 松園福祉会
特別養護老人ホームあすなろ園
家族会発行

倉敷市玉島勇崎1,044番地
電話 086-528-3110
FAX 086-528-3255
ホームページ <http://www.asunaro.or.jp>
E-mail info-a@asunaro.or.jp



▲4人揃って同級会音頭(あすなろバージョン)を歌うと、手拍子が沸き起こりステージと会場が一体となった。



▲「荒城の月」を歌う田中孝司さん ▲「草津節」を歌う大橋博夫さん ▲「斉太郎節」を歌う松尾静子さん ▲「下津井節」を歌う川上君子さん

8月19日玉島文化センターで、玉島民謡同好会創立35周年記念「民謡の祭典」が開催された。今回の発表会は、会主の藤本春正先生の米寿も祝って開催されたもので東京の藤本流本部からも師匠が来演。近隣の民謡各流派の会主も友情出演するなど、華やかなステージとなった。藤本春正先生は、長年あすなろ園で音楽療法の一環として民謡クラブの指導を毎週1回行って下さっている。このような地域の催事に施設入園者が出演できることは滅多にないことで入園者が車椅子で出場すると、会場から温かい拍手が送られた。

中塚周一理事長が華燭の典
お二人の未永い幸せを祈ります

社会福祉法人松園福祉会前理事長中塚正人氏が今年一月三日に急逝された。その跡継ぎとして長男中塚周一氏(前副園長)が当法人理事長に就任された。

四月には、岡山県議会議員選挙に、父の後継者として立候補。さらに九月一日には、結婚式を岡山市の全日空ホテルで挙げられた。

お相手は、旧姓天野靖子さん(笠岡市 天野 学 岡山県議会議員選挙中応援に来て、(笠岡選挙区は無投票当選) 街宣車でマイクを握った間から。それだけに縁談がトントン拍子に運び重ねての祝いとなった。

おめでとございます。

玉島南小児童
アルミ缶集めて
あすなろ園に車椅子寄贈

三月十九日、玉島南小学校児童会が長い間アルミ缶収集活動を続け、その収益金であすなろ園に新型車椅子(リクライニング式)二台を寄贈して下さいました。

入園者は、病院等への通院のとき利用しております。
子供たちの思いやりの心に、

あすなろ園の皆さんが感謝し感謝しています。
ありがとうございます。

▼入園者をかこんで家族と食事

お知らせ

あすなろ園柏台ダイサービスセンターを今年秋開設の予定でありましたが、諸般の事情で実施ができていません。鋭意準備中ですのでよろしくお願致します。

社会福祉法人 松園福祉会

職員

表彰おめでとう

今年度次の方が表彰を受けられました。おめでとうございます。

全国老人福祉施設協議会会長 感謝状

園長 虫明 正雄
倉敷市保健福祉功労者市長表彰(栄養改善事業)
栄養士 小寺真喜枝

誕生日に
家族と食事会

あすなろ園では、毎月第二木曜日誕生会を開催している。特別献立と、対象者には、あすなろ園と家族会から記念品を贈呈。ボランティアの演芸などで楽しいひと時をすごす。

また個別の誕生日には、家族に來園していただき、食事会を行っている。献立はその日の施設の食事にキーキをつけて祝う。家族と共にたべることで入園者からは大変喜ばれている。

ボランティア

ありがとうございます

平成十九年十月十日より
平成十九年十月十一日まで

ボランティア団体

民謡みやこ会様
黒崎中学校区人権学習推進委員会様
玉島中学校区人権学習推進委員会様
わらべ歌の会様
玉島歌声喫茶様
布の花の会様
日本アマチュア歌謡連盟倉敷支部様
三上久潤社中様
おね劇団様
寿会様
カトリアの会様
柏島幼稚園様
岡山県大正琴愛好会様
岡山県西部ヤクルト販売様

桑名 純朗様
金澤 孝子様
白神 峯子様
西 公恵様
藤澤 孝江様
山本 良恵様
西山 悦江様
国富 佳子様
西山ヒサエ様
架場美代子様
渡辺 信子様
末吉 和子様
山本 和子様
中山 玲子様
白神 和正様
須江 玉美様

林 道弘様
白神 美子様
徳田ヤス子様
中藤 政恵様
富田 澄子様
生峰 民子様
三宅 裕子様
柴 典昭様
堀 勝山様
間部とみえ様
堀江美栄子様
浅原二三江様
樋口 雄治様
西山 寿男様
内田 光則様

歌舞の会様
小原若葉会様
ゆりかごコーラス様
松玉会様
玉島民謡同好会様
笠岡愛の善意銀行様
倉敷栄美寿会様
柏台町内会(おかもめ会・わらべ会・カラオケ同好会)様
ユタカフアラウ様
楽団シルバースター様
玉島商業高校野球部様
夏まつりボランティア様
八幡保育園様
あすなろ園家族会様

一陽来福

忠ならんと欲すれば孝ならず
孝ならんと欲すれば忠ならず
この矛盾を胸にとじこめて鹿
児島の知覧を飛び立っていった
若者達がいました。あれから
六十有余年その時黙って見送る
しかできず、ただ生きる為に働
いた多くの人々が、いま老人
ホームに入居されています。

あの時代を語ることも無く、
語ることすらできない、この
方々が、静かなる時を過ごせる
ようにしてゆかなければならな
い。

子が親にナタを振る、親が
子を虐待し、金の為なら偽物ま
でも売る、ましてや、年金を自
分の懐にするような時代であつ
たとしても……(中藤)

編集者 「あすなろだより」
編集委員長 中藤 和雄

介護のタスキをつないで

家族・介護士・看護師・医師・...



あすなろ園 嘱託医
中塚医院院長

中塚 繁治

早いもので私が、あすなろ園の嘱託医をうけてから十数年が経過し、多くの利用者の方々とお会い診療し、そして見送つてもきました。その間、医者として、また人として多くのことを学ばせてもらいました。

特別養護老人ホームに入居された方々の多くは、そこが「終の棲家」となります。私も介護の現場を、より知るために介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格も取り、より一層身近に接しようとしてまいりました。今回は「あすなろ園」での体験を通しての雑感を書いてみました。

入居者の方々は、年齢・健康度・必要な介護量や家庭環境等々の条件下で在宅介護を継続することが困難となり、現在に至っている場合が多いのではないのでしょうか。最近の医療機器や介護用具はすばらしく進化し

てきました。それがゆえに操作は複雑に且つ煩雑になっていきます。実際に酸素療法・気管切開・自己導尿・褥創処置など、在宅での多種多様な処置は医療従事者にとっても大変な労力が必要ですので、そうでない御家族が在宅介護を行うには、困難なことが多々あります。まして老々介護となればなおさらです。時間的・経済的な要因も重なり、心身共に疲れ果ててしまい、介護する側・される側が共倒れ状態に陥ってしまうことも少なくありません。その困難になった在宅介護に代わり、支えてくれるのが老人施設であると思えます。ここでは、専門の知識と経験を備えた看護職員と介護職員が日夜見守ってくれています。

介護の制度と現場

そこにも諸問題があり限界が存在します。施設には医師が常在していませんし病院ではありませんので、薬品には配備上の制限があり、介護機器や医療器具にも使用制限があり、そして医療行為も制限されます。また、夜間は介護職員一人でも多くの入居者に対応せざるをえないというような状況です。

これは、個々の問題でなく、日本中の老人施設を含めた介護保険制度上の根本的な問題です。コムスの問題がマスコミで取り上げられて、厳しい介護現場の現状が広く知られるようになりましたが、今の介護保険制度は、従事者の善意の献身的な労働の上に成り立っていると

いってもいいでしょう。介護業務の煩雑さ・労働条件の厳しさ、それに比しての介護報酬のひくさを考えると、やりきれないものがあります。このような老人施設の置かれている現状を多くの方に理解してもらいたいのです。私も含めて職員一同、ご家族の方々が利用者の方を思う気持ちをお大切にしながら日々の業務にたずさわっています。しかし最近ではいろいろな事を、何か一方的に介護施設やそこでの従業員に落ち度があるという前提の上でマスコミが取り上げて、世間の批判が集まることで多くみられます。もちろん当然非難されるべき不祥事件は論外ですが、今のままでは現場は萎縮してしまい、従事者の仕事に対する動機・情熱が失われると感じています。

ご家族の協力と理解

制度上の諸問題については、個々の力では解決できませんがその中でも、できるだけ良質な介護を提供するには利用者およびご家族の方と従事者の信頼関係が欠かせません。

係が欠かせません。入居に至るまでの入居者の人生は、各人実に様々ですので、お互いに情報を共有し、納得することが大切です。

健康面で不安を抱える人、認知症でうまく実生活が送れない人、そして、自己表現がうまくできない人等々、同じ声かけ・対応であっても受け手によってその反応は異なります。ですから、常に利用者の方への対応は手探り状態です。このような問題もご家族の方々の協力を得られれば、解決に向けての大きな力となります。

「生き方と逝き方」

医療、介護現場では死は避けて通れないものですが、最後を迎える場所や原因はひとつによって様々です。逝く人を支えるのは、あとに残る者にとって苦しくもありませんが使命でもあります。

この一線を越えたら重態・あるいは危篤との判断は極めて難しいものです。私たちは終末期には早めにご家族に、入居者の最近の体調面や食事の摂取状況を説明し、後の対応について話し合うように心がけてきました。つまり医療面を考慮して病院への入院か、年齢や容態を考慮しての施設での介護かの選択になるかと思えます。医療面の助言はその都度行ってきました。が、個々の持つ価値観・人生観がその際の選択に大きく影響する

るようです。

誰しも死という現実がすぐ目の前に現れてくると慌ててしまいがちです。冷静に判断できなくなり、当事者は勿論のことご家族の方々の感情や意思も変わってくる場合があります。そのため、心に余裕のある時に入居者を交えて残されるご家族の方々が後悔しない納得できる選択肢を探しておくことが大事だと思います。

私も日頃の医療・介護を通じて、入居者各人にとってどの様な形が最善なのかを考えるようには努め助言はしますが、最終的にはやはりご家族の判断によります。

いろいろと雑多に書いてきましたが、多くの方がこのような現場を取り巻く環境や制度の事情を理解して、施設での入居者の皆さんの「生き方・逝き方」を共に考えて下さいます。そして、人生の先輩である利用者の方々が、「あすなろ園」で安寧をえられよう。今後も周囲の皆様方と協力して努めていきたいと思っております。



交流会 笑顔が満開

いきいきライフ

夏まつり



▲「外で食べるタイヤキ最高」



▲さわやか笑顔



▲沙美海岸・丸山公園などへ出かけるのが気分爽快

お出かけ



▲地域の幼稚園、保育園児の来園で、笑顔がほころびます



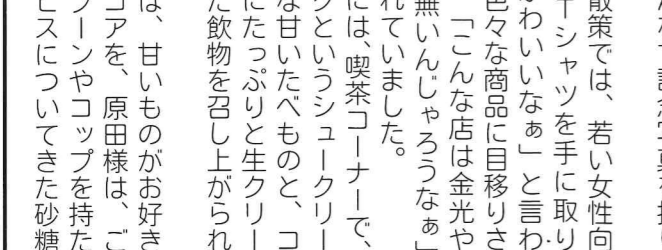
▲回転すしを楽しむ

▲100歳の笑顔



▲園内喫茶で

▲おやつ作りはまかせてよ



▲夏まつりはうれしゅうて

▲「タコ焼いただきましたー」



▲「照れるなー」

▲「わしゃー最高じゃ」

介護日誌 105歳のシモンズ

介護職員 片山美恵子

八月三十日あすなろ園の入園者と外出する機会がありました。外出されたのは園の最長寿、一〇五歳の、若狭千代恵様、二番目長寿一〇三歳の原田好子様、七十二歳の赤木厚子様です。朝十時、フロアの利用者職員に大きな声で「行ってきます」と元気よく出発、マルナカ新倉敷店へと向いました。店内に入った時嬉しいことがありました。それは、事前に外出の連絡をしていたことで、若狭様のご家族が大勢こられ、到着を待っていて下さったのです。ご家族も若狭様もお互いの姿を見つけて「ありやー」と喜ばれ、皆んなで記念写真を撮りました。

店内の散策では、若い女性向けの赤いTシャツを手に取り「ありやかわいいなあ」と言われたり、色々な商品に移りながら、「こんな店は金光や鴨方には無いじゃろっなあ」と感心されていました。

散策後には、喫茶コーナーで、ウフミルクというシュークリームのような甘いものと、ココアの上にとっぷりと生クリームがのった飲料を召し上がられました。赤木様は、甘いものが好きなのでココアを、原田様は、ご自身でスプーンやコップを持たれ、サービスについてきた砂糖



▼マルナカ喫茶コーナーで楽しむ入園者